

スターテレビ

NHK仙台テレビ放送局が、まだ試験放送もしていない時代に私は蔵王で東京からのテレビ放送の受信に成功した。

は大洋漁業を下船、私の生家や妻の生家に居候していた時、まだ東北では放送していないが、テレビのキットを買って組み立ててみたくなった。あの当時白黒十四インチの完成品は十四、五万円もする。キットだと半値位で買える。

同じ屋敷に居る弟の泰ちゃんは、国鉄の車掌さんで、上野と青森間に乗務していた。旅客列車の途中に荷物車が連結してある。泰ちゃんはその当時、荷扱い車掌で荷物車に乗務していた。

泰ちゃんのスケジュールに合わせ私は白石から乗車。二人で秋葉原に行き、スターテレビというキットを求め上野駅に運んだ。キットはスターテレビが主流であった。

帰りは刷り上ったばかりの新聞が積み込まれ、私と泰ちゃんとキットと共に同じ貨車に乗り込んだ。寒い季節だったが、新聞はホカホカ暖かい、私は新聞の上に横になり発車した。

急行列車だった。停車駅に到着するとその時間内に素早く新聞を待つていた駅員に渡す。目の回るような作業を傍観、大変な仕事である。こんな事が三、四回繰り返され、白石駅に着いた。

白石駅で新聞は無かった。ホームの柵の外には義弟の常世ちゃんが、自転車にリヤカーを引き待っていてくれた。素早く私が柵外に出、泰ちゃんがテレビを運んで渡してくれた。その間約一分以内見事である。泰ち



やんは手を振って発車して行った。

白石から矢附まではきつくないが、登り坂である。リヤカーに私とテレビを乗せ、真夜中の田舎道、を自転車で引いて運んでくれた常世ちゃんの様子が目に浮ぶ。

私の生家で一週間がかりで組み立てた。囲炉裏端で温まりながら、説明書と首つき、測定器が無かったから難しい部分があったが、どうやら完成した。

蔵王町は円田村と宮村が合併した町だ。合併する前の円田村役場前に鍛冶屋さんがあり、その土間つき縁側を、仙台に引越し開業するまでの間借用し、家電販売のアルバイトを始めた。

現代のように家電が普及していない時代だから、あまり売れない。私としては営業の第一歩だった。

私の生家平沢と、妻の生家矢附に交互に泊まりに行きながら、店に出掛けた。頼まれて五球スーパーラジオを組み立てて売った事もある。部品などは仙台に自転車で買いに行った。

組立てたテレビを受像しなくなり、了解を受け、店の隣に立っていた鉄骨製の火の見櫓に高性能のアンテナを設置した。高さ約二〇米、方向は東京、その南方の方向は開けている。

おそろおそろスイッチを入れたらどうだろう、見えたではないか。ノイズの中に美空ひばりの顔が映っている、歌声も聞こえる。

昭和二〇年春だった。NHK仙台テレビの試験放送が始まる前だ。おそらく宮城県のテレビ受像第一号ではないかと思われる。

秋にはNHK仙台テレビの本放送が始まった。店の前は相撲放送の時には、見物人で黒山であった。

父に頼まれて生家の平沢でテレビ受像の出前をやった。相撲放送の時である。私の生家は広いが、入りきれない人々は縁側から庭までのみ出して、終わりまで見て帰って行く。産まれて初めてテレビを見、お相撲さんのデッキカイト体に驚き、それを冥土の土産に旅立ったお年寄りが多いと、何年か後に父より聞かされた。

翌年昭和二十一年三月仙台に引越し、同年六月村上電機ラジオ店を創業した。